

2021年新渡戸脳研・内原俊記 活動報告

あけましておめでとうございます。

コロナ禍が収まりきれない中ですが、昨年もできることを少しずつ進めてきました。

病理解剖：在宅剖検事業：通算で91例目となり、とりあえずの目標の100例に少しずつ近づいています。三菱財団より外部資金が2021年に得られ、事業は当面継続可能となりました。

とはいえ昨年の剖検は13例のうち3例は他院からの依頼です。当院内での死亡で病理解剖になった例は7例と激減しており、危機的状況です。一方で在宅関連例は増加し、特に病理解剖の事前承諾をいただいた例が病理解剖につながりはじめており、どのように拡大するかが今後の課題です。

新渡戸グローバルCPCの更なる拡大：2020年にCPCをWeb開催に移行し、2021年は「新渡戸グローバルCPC」と改め、関連の解説を積極的に取り入れる様に務めました。CPCの司会を1年目の研修医が担当する場合に2年目研修医がサポートする「司会コーチ」制を導入し、議論の活性化を図りました。さらに「脳肉眼診断の極意」コーナーを導入して好評を博しています。外部や医学生の参加も定着しており、今後さらに内容を充実させた上で、参加者を増やす戦略が必要です。

外部施設との協力体制拡大：東京医科歯科大学脳神経内科特任教授に加え、2021年には順天堂大学服部信孝教授の御取り計らいで順天堂大学神経学講座客員教授、浴風会病院伊藤嘉憲院長の御取り計らいで病理非常勤としていただき、病理検体や研究設備へのアクセスが拡大しています。2021年には脊髄変性症SCA34の世界で初剖検例の解析に参加させていただきActa Neuropathol Comm誌での発表につながりました。これらを活かした研究論文の発信が今後求められます。当院の新渡戸モデルに準じた在宅剖検体制を作ろうとする動きが複数でており、今後協力体制を構築して事業拡大をめざします。

学会活動：東京医科歯科大学横田教授の御取り計らいで日本神経学会の推薦代議員としていただきました。2021年の学術大会では「Selective vulnerability of alpha-synuclein-related neurodegeneration -beyond proteinopathy and propagation-」の公募シンポジウムをAutophagyのAna Maria Cuervo教授、Parkinson病専門のJames Surmeier教授と企画し採択されました。2022年の学術大会では4リポートタウCBD/PSPについての公募シンポジウムをParkinsonism臨床のAnthony Lang教授、タウ病理のGabor Kovacs教授と企画し連続して採択されています。いずれも世界的権威の大御所ばかりで、今後、わが国の臨床・研究活動に活かす契機になればと期待しています。神経学会では神経病理の教育コースを続け2020年の内容を日本神経病理学会誌NeuropathologyにNeuropathology Case Clusterと名付けた複数症例報告集という新たな出版形態を提案しました。2021年12月号に掲載となっていますので、御覧ください。<https://doi.org/10.1111/neup.12783>

様々な試みがそれぞれに拡大しており有り難い限りですが、一人で対応できる範囲を遥かに超えています。CPCへの御参加以外にも病理解析、在宅剖検等、臨床から研究に渉る他施設ではみられない様々な材料が新渡戸記念の臨床、新渡戸脳研には眠っています。興味のある方は他施設からでも脳研の活動に参加していただければ大変有り難く存じます。引き続き本年も宜しくお願い致します。

2021年 新渡戸記念中野総合病院 剖検例一覧

	年齢	性別	臨床診断	在宅	開頭
1	82	M	多発性脳梗塞		○
2	68	M	呼吸不全	在宅	○
3	90	M	進行性核上性麻痺		○
4	90	M	パーキンソン病		○
5	86	F	急性冠症候群	在宅	○
6	49	M	EBウイルス感染症		
7	75	M	Parkinson病	在宅	○
8	91	F	パーキンソン症候群	在宅	○
9	58	M	肝不全、肝性脳症		○
10	81	M	パーキンソン病	在宅	○
11	62	F	子宮頸がん		
12	69	M	急性呼吸不全		
13	94	M	慢性心不全	在宅	○

2021年 内科・神経内科CPC一覧

開催日	回	症例	解説・講演
1月27日	508	認知障害は軽度だがALS特異的病変が海馬へも及んでいた80歳代男性剖検例 臨床：黒岩 伸明 病理：田口 登和子 司会：和泉 貴生 (修1)	
2月24日	509	重症急性膵炎から多臓器不全を来した60歳台男性の一例 臨床：甲斐 文彬 (修2) 病理：國枝 純子 司会：伊東 翼 (修1)	
3月24日	510	末梢神経障害を伴う遺伝性ALS 臨床：融 衆太 病理：國枝 純子 司会：山本 始 (修1)	沖縄病院藤崎なつみ先生 『沖縄型神経原性筋萎縮症の臨床像と家系図』 鹿児島大学岡本裕嗣先生 『沖縄型神経原性筋萎縮症の原因遺伝子検索とTFG変異による表現型の拡がり』
4月28日	511	慢性呼吸不全急性増悪を呈し間質性肺炎が疑われた症例 臨床：田中 理子 病理：加藤 祐己 司会：市川 椋雅 (修2)	沖縄県立中部病院呼吸器内科喜舎場朝雄先生 『ベッドサイドから学ぶ呼吸器疾患』
5月26日	512	胃原発DLBCL術後高ビリルビン血症が遷延した一例 臨床：吉野内 聡 病理：布川 裕規 司会：山本 始 (修2)	秋山秀樹先生 『Primary gastric lymphoma』
6月23日	513	亜急性に四肢筋力低下が進行し、傍腫瘍神経症候群が疑われた70歳台男性例 臨床：金尾 季範 病理：加藤 祐己 司会：川本 脩平 (修1)	愛知医科大学加齢医学研究所助教 陸 雄一先生 『これがALSではないと 言い切れますか？ ～臨床神経病理学の視点から～』
7月28日	514	認知障害が20年以上進行し、類天疱瘡治療後肺炎で死亡した90歳台男性 臨床：板東明子 病理：山本 くらら 司会：嶋田 壮太郎 (修1)	内原 俊記先生 『脳の複合病理 (Comorbidity)について —モノの踵蓮に寄せて—』
9月22日	515	脳梗塞加療中にコントロール困難な下血を認めた透析患者の一例 臨床：芋野 充紘 病理：布川 裕規 司会：岩猿 圭一 (修1)	
10月27日	516	4年の経過で胸水貯留を認め、炎症反応高値が遷延した60歳台男性例 臨床：安達 彩織 病理：小柳 杏莉 司会：村上 理子 (修1)	
11月24日	517	著明な頸部後屈を呈する悪性症候群を来し背景にパーキンソン症候群が疑われた90歳代男性剖検例 臨床：黒岩 伸明 病理：加藤 祐己 司会：三井 康平 (修1) コーチ：市川 椋雅 (修2)	新宅洋先生によるミニレクチャー 「脳肉眼診断の極意その1」開始
12月22日	518	繰り返す意識消失と誤嚥性肺炎の背景にLewy小体病が疑われた90歳代男性例 臨床：七枝 健太郎 病理：七枝 健太郎 司会：井口 晋太郎 (修1) コーチ：山本 始 (修2)	内原 俊記先生 『Lewy病変のはじまりとひろがり』 新宅 洋先生 「脳肉眼診断の極意その2」

1. Homma, T. *, S. Toru, K. Hirokawa, T. Uchihara 2021. Digital mapping of Lewy bodies and neurites in alpha-synuclein stained large cerebral hemispheric sections from three patients with dementia with Lewy bodies showing psychotic manifestations: A pilot study. NEUROSCIENCE LETTERS 747: 135708. doi: 10.1016/j.neulet.2021.135708
2. Ichinose, K., M. Watanabe, S. Mizutani, T. Tanizawa, T. Uchihara, H. Fujigasaki* 2021. An autopsy case of corticobasal syndrome with pure diffuse Lewy Body Disease. Neurocase 27: 231-237. doi: 10.1080/13554794.2021.1921220
3. Mandai, S., T. Yamada, T. Uchihara, T. Iida, T. Ito, H. Sato, K. Sato, Y. Chida, K. Hirokawa, Y. Noda 2021. Severe Dialysis-Related Amyloidosis Spared the Brain: An Autopsy Case of a Patient Receiving Hemodialysis for 41 Years. JOURNAL OF NEUROPATHOLOGY AND EXPERIMENTAL NEUROLOGY 80: 997-999. doi: 10.1093/jnen/nlab022
4. Nagaoka, U. *, T. Shimizu, T. Uchihara, T. Komori, H. Hosoda, K. Takahashi 2021. Decreased plasma ghrelin in male ALS patients is associated with poor prognosis. NEUROSCIENCE RESEARCH. doi: 10.1016/j.neures.2021.11.003
5. Nagata, T., C. A. Dwyer, K. Yoshida-Tanaka, K. Ihara, M. Ohyagi, H. Kaburagi, H. Miyata, S. Ebihara, K. Yoshioka, T. Ishii, K. Miyata, K. Miyata, B. Powers, T. Igari, S. Yamamoto, N. Arimura, H. Hirabayashi, T. Uchihara, R. I. Hara, T. Wada, C. F. Bennett, P. P. Seth, F. Rigo, T. Yokota* 2021. Cholesterol-functionalized DNA/RNA heteroduplexes cross the blood-brain barrier and knock down genes in the rodent CNS. Nat Biotechnol 39: 1529-1536. doi: 10.1038/s41587-021-00972-x
6. Nihonmatsu-Kikuchi, N., X. J. Yu, Y. Matsuda, N. Ozawa, T. Ito, K. Satou, T. Kaname, Y. Iwasaki, A. Akagi, M. Yoshida, S. Toru, K. Hirokawa, A. Takashima, M. Hasegawa, T. Uchihara, Y. Tatebayashi* 2021. Essential roles of plexin-B3(+) oligodendrocyte precursor cells in the pathogenesis of Alzheimer's disease. Commun Biol 4: 870. doi: 10.1038/s42003-021-02404-7

7. Ozaki, K. *, T. Irioka, T. Uchihara, A. Yamada, A. Nakamura, T. Majima, S. Igarashi, H. Shintaku, M. Yakeishi, Y. Tsuura, Y. Okazaki, K. Ishikawa, T. Yokota 2021. Neuropathology of SCA34 showing widespread oligodendroglial pathology with vacuolar white matter degeneration: a case study. ACTA NEUROPATHOLOGICA COMMUNICATIONS 9: 172. doi: 10.1186/s40478-021-01272-w
8. Takahiro Takeda, Toshiki Uchihara*, Noriyuki Shibata 2021. Let's cluster cases in Neuropathology Case Cluster series!: Unveil clinical masqueraders(Neuropathology Cluster Case 1–13). Japanese Society of Neuropathology. doi: 10.1111/neup.12783
9. 内原俊記* 2021. 40年後の原点回帰-neurology consultant-として. In 40年後の原点回帰-neurology consultant-として, 沖縄県立中部病院雑誌, 43-47.
10. 内原俊記* 2021. 三つのこころ-こころから、こころがけ、こころみる. In 三つのこころ-こころから、こころがけ、こころみる, 公益財団法人精神・神経科学振興財団記念誌・業績集, 168-171.

学会

1. シンポジウム企画、司会：内原俊記(2021). Selective vulnerability of alpha-synuclein-related neurodegeneration -beyond proteinopathy and propagation-. 座長：Surmeier D. James 内原 俊記. 第62回日本神経学会学術大会. 国立京都国際会館. 2021.5.19-22
2. シンポジウム演者：内原俊記(2021). Hyperbranching axon as a structural template for Parkinson disease and aging.. 座長：Surmeier D. James 内原 俊記. 第62回日本神経学会学術大会. 国立京都国際会館. 2021.5.19-22
3. 教育コース企画、司会：内原俊記(2021). とらえどころのない大脳皮質症状を病理からとらえなおす. 座長：内原 俊記 川勝 忍. 第62回日本神経学会学術大会. 国立京都国際会館. 2021.5.19-22.
4. シンポジウム企画、司会：内原俊記(2021). 看取りからCPCまで拡大する在宅医の役割在宅剖検事業「おだやかな看取りを明日に活かすみち」の新展開. 座長：内原 俊記. 融 衆太. 第3回日本在宅医療連合学会大会. Web. 2021.11.28
5. シンポジウム演者：中島美知子, 今村昌幹, 中島マリア美知子, 中島修平, 石田尚子, 融 衆太, 内原俊記, 北川昌伸, 廣川勝昱, 入江徹也(2021). 遷延する意識障害の見られた肝硬変患者のエンドオブライフ・ケア～在宅病理解剖とCPCの視点より検討～. 座長：内原 俊記. 融 衆太. 第3回日本在宅医療連合学会大会. Web. 2021.11.28
6. シンポジウム演者：石田尚子, 今村昌幹, 中島美知子, 融 衆太, 内原俊記(2021). 肝硬変の末期に意識障害の増悪がみられた在宅剖検の一例. 座長：内原 俊記. 融 衆太. 第3回日本在宅医療連合学会大会. Web. 2021.11.28
7. シンポジウム演者：内原俊記, 融 衆太, 今村昌幹, 中島美知子, 三五美和, 中村洋一, 安西宣恵, 廣川勝昱, 北川昌伸, 入江徹也(2021). 在宅からの病理解剖例のCPCで在宅医自身が臨床提示する意義. 座長：内原俊記. 融 衆太. 第3回日本在宅医療連合学会大会. Web. 2021.11.28
8. 朴文英, 横手裕明, 黒岩伸明, 安達彩織, 七枝健太郎, 銭谷怜史, 内原俊記, 叶内匡, 融 衆太(2021). 呼吸不全を初発症状とした球脊髄性筋萎縮症 (SBMA) の67歳男性例. 第236回日本神経学会関東・甲信越地方会. WEB (LIVE配信) .2021.3.6

9. 林祐一, 下畑享良, 吉田眞理, 齊藤祐子, 小森隆司, 内原俊記, 林健太郎, 佐野輝典, 齋藤由扶子, 池内健, 饗場郁子, J.-V.-s. group (2021). 本邦におけるCBD mimicsの臨床的特徴(J-VAC study). 座長: 織茂智之. 第62回日本神経学会学術大会. 国立京都国際会館. 2021.5.19-22
10. 融衆太, 岡野和美, 石原明子, 毛利香織, 青木夏姫, 安達彩織, 黒岩伸明, 朴文英, 銭谷怜史, 横手裕明, 内原俊記(2021). パーキンソン病における嚥下機能評価. 第62回日本神経学会学術大会. 国立京都国際会館. 2021.5.19-22
11. 内原俊記, 融衆太, 山根道雄, 北川昌伸, 廣川勝昱, 入江徹也(2021). 在宅剖検事業「おだやかな看取りを明日に活かすみち」の新展開. 第62回日本神経学会学術大会. 国立京都国際会館. 2021.5.19-22
12. 安達彩織, 黒岩伸明, 朴文英, 七枝健太郎, 銭谷怜史, 横手裕明, 内原俊記, 融衆太 (2021). 髄膜刺激徴候と髄液細胞増多の乖離の検討. 第62回日本神経学会学術大会. 国立京都国際会館. 2021.5.19-22
13. 内原俊記(2021). 在宅剖検事業「おだやかな看取りを明日に活かすみち」の新展開. 座長: 佐野輝典. 田野光敏. 第62回日本神経病理学会総会学術研究会. WEB. 2021.5.27-5.29
14. 伊東翼, 横手裕明, 石原明子, 秋山秀樹, 内原俊記, 融衆太(2021). 両側の感音性難聴と続発する高度な前庭機能障害で発症したびまん性大細胞型B細胞リンパ腫の69歳女性例. 第237回日本神経学会関東・甲信越地方会. Web (LIVE配信) . 2021.6.5
15. 安達彩織, 加藤祐己, 新宅洋, 金尾季範, 横手裕明, 北川昌伸, 内原俊記, 融衆太(2021). 亜急性に進行する四肢筋力低下を認め、傍腫瘍性神経症候群と診断した70歳男性剖検例. 座長: 櫻井篤志. 第238回日本神経学会関東・甲信越地方会. Web (LIVE配信) . 2021.9.4
16. 融衆太, 岡野和美, 石原明子, 毛利香織, 青木夏姫, 安達彩織, 黒岩伸明, 朴文英, 銭谷怜史, 横手裕明, 内原俊記(2021). レビー小体病における認知機能と嚥下機能. 第40回日本認知症学会学術集会. 東京国際フォーラム WEB. 2021.11.26-28
17. 二本松尚美, 于秀軍, 松田芳樹, 小澤信幸, 青木和久, 吉田眞理, 長谷川成人, 内原俊記, 楯林義孝(2021). 老人斑を認識するPlexin-B3 の発現量はBraak Stage と相関する. 第40回日本認知症学会学術集会. 東京国際フォーラム WEB. 2021.11.26-28

18. 岩猿圭一, 丸岡浩之, 渡邊由衣, 砂生奈那美, 青山尚文, 横手裕明, 内原俊記, 融衆太 (2021). Upbeat nystagmus を呈した右延髄上部内側梗塞の61歳女性例. 座長: 平野照之. 第239回日本神経学会関東・甲信越地方会. Web (LIVE配信) . 2021.12.4

講演

1. 内原俊記 2021. レヴィー病変と選択的脆弱性-Braak-Prion 仮説再考. In レヴィー病変と選択的脆弱性-Braak-Prion 仮説再考, 第26回青函神経疾患フォーラム. フォーポイントバイシェラトン函館.